看護職の再就職を応援する情報誌　TOKYOナースプラザ　Vol.66　2017.9.1

やっぱり看護が好き

座談会

ベテラン・ナースのセカンドキャリア
part 2
やりがいで選択しいつまでも輝く

Interview これからの看護

利用者の視点に立てる
優しい想像力

おすすめ研修

人にやさしい動作介助技術

施設セミナー

職場の魅力の伝え方

地域に密着した
足立区「看護＆介護 就職フェア」

ふれあいナースバンク「就職相談会」

東京都ナースプラザ

利用者の視点に立てる優しい想像力

柴田 三奈子さん
株式会社ラピオン代表取締役・山の上ナースステーション

柴田さんの訪問看護事業参入は8年前の訪問看護ステーション開設にさかのぼります。以降、居宅介護支援事業、通所介護事業へと事業を拡大し、3年前には在宅サポートハウスを開設しました。総勢約80名のスタッフが地域住民の生活や医療を支えています。山の上ナースステーションは都の訪問看護教育ステーションでもあり、新任訪問看護師就労応援事業に参加するなど、訪問看護師の育成にも力を入れています。

柴田さんに取材をお願いしたところ、いまはほとんどの時間を過ごされているという在宅サポートハウスでお会いすることになりました。うかがった在宅サポートハウスは、在宅医療を必要とする人が住むことのできる3階建13室の賃貸住宅で、1階には通所介護施設が併設されています。開設の理由をお聞きすると、「高齢者の1人暮らしや老老介護など、在宅での生活が困難な人が増えています。施設に入所したくても、医療処置が多いと受け入れてもらえないこともあります。また、数日だけ預かってもらえたら入院させずに済むのに、3日でいいからゆっくり眠りたいといったご家族の悩みを聞くことがあります。そうした悩みを解消するために、看取りまでできる体制をつくりたかった」と言います。賃貸住宅なので24時間家族が自由に出入りでき、入居者は常に看護師の見守りを受けて、安心して暮らすことができます。さらに、経営する他施設と緊密に連携し合っているので、訪問看護・通所介護の利用も容易です。入居対象は高齢者に限らず、がん緩和ケアを施行中の方なども含まれます。

「訪問看護を始めてからは、仕事に行くのをいやだと思ったことはない」という柴田さん。利用者の方たちは変わりないか、早く会って顔を見たいという思いが募り、一刻も早く職場に着きたくなるのだとか。

8年という短期間で次々に新しい施設を立ち上げて順調に運営し、1年後にはさらに、複数のサービスを1つの場で提供できる看護小規模多機能型居宅介護のための施設の開設を予定していると聞いて、そのバイタリティはいったいどこからくるのか、うかがってみたくなりました。

「医療や介護のしくみがつくられ運用される中で、それでも行き届かない隙間にいて困っている人たちがいます。そういう人たちをなんとか支えたいという思いがあって、それこそが私の仕事だと思っています。私たちが関わることで、そういった方たちに幸せな生活を送っていただけるのなら、とてもやりがいのあることだと思っています」

柴田さんのバイタリティの源は、利用者の視点に立てる優しい想像力のようです。

山の上ナースステーションは東京都新任訪問看護師就労応援事業に参加しており、在宅サポートハウスは新任研修の場として活用されています。

「昨年は新卒者2名、既卒者1名を、今年は既卒者1名を新任看護師として受け入れました。新卒者は1人立ちするまでに1年ほどかかります。最初の半年間は在宅サポートハウスで研修することで、衣食住といった生活の中で看護師が応援できることを学べます。そのうえで処置など医療支援の研修を受けていただくと、その方がどんな生活を送りたいか、といった利用者の視点を大事にする看護ができるようになるのです」

最後に、再就職を考えている看護職の方へのメッセージをいただきました。

「利用者1人ひとりに時間をかけて向き合える訪問看護は、看護師にとってとても勉強になり、人として成長させてくれる仕事です。利用者が何をしてほしいと思っているか気づいてあげられる、人を思いやる心があればできる仕事です。それは新卒、既卒関係ありませんし、実際、当施設では20代から60代までの幅広い年代の看護師が働いています。訪問看護に自信がなくて不安のある人は、地域の訪問看護教育ステーションで研修を受けたり、相談してみるのもよいと思います。1人でも多くの看護師に訪問看護の場に来ていただきたいですね」

●プロフィール

柴田 三奈子（しばた みなこ）
山口県下の高校衛生看護科を卒業後、2年制の看護専門学校に進学。11年間の病院勤務を経て訪問看護の道へ。その後 株式会社ラピオンを立ち上げ、「山の上ナースステーション」、「サポートハウス山の上」などの医療・介護施設を開設。現在は法人全体で約80名のスタッフを擁する。
訪問看護認定看護師（日本看護協会）、介護支援専門員。

おすすめ研修

人にやさしい動作介助技術
―動くことを支援する―

●講師　齋竹 一子先生
（特定非営利活動法人 動作介助研究会 理事長）
●インストラクター　塚本 佐佳子さん
（特定非営利活動法人 動作介助研究会）

●対象者：都内在住で就業を希望する離職中の看護職（要ナースバンク登録）、都内の中小規模施設に勤務する看護職
●実施日時：２０１７年６月20日（火）
9：30～12：30
●１回定員：20人

日頃の介助で腰痛などの負担を感じることはありませんか？　介助する側もされる側も楽な動作介助は、「もし自分が介助される側だったら？」と考えることから始まると齋竹先生は言います。

人間の自然な動きを知ることで、その中の何ができて何ができないかを判断することができるようになり、それぞれできることが異なる相手の動きに合わせて、必要な分だけ手伝うことができるようになります。それを体験するために、実技では、寝返り、起き上がりから移乗までの動作介助を、介助する側・される側の両方を体験しました。

立ち上がり動作のときに、介助者が距離を置かずぴったり前に立つことは、受ける側の動作を阻むことなど、気づきの多い研修だったと好評でした。

次回は12月12日（火）の開催を予定しています。

齋竹先生の講義

立ち上がりの介助を実演する齋竹先生とインストラクターの塚本さん

立ち上がりから移乗の介助

座位姿勢修正の介助

第1回
施設セミナー

職場の魅力の伝え方
イキイキと働ける職場づくりと効果的な採用活動の方法

●講師
石田 秀朗先生
（テキックス株式会社 代表取締役）

●対象者：管理的立場にある方、または予定の方（含 事務職）
●実施日時：２０１７年７月20日（木）
14：00～16：00

本誌を読んでくださっている看護職採用担当の方にお尋ねします。「看護職の募集は経費や労力の無駄が多い」と悩んでいませんか？　第1回施設セミナーは、そんな悩みにお答えするために開催されました。

「効果的で、応募してくる看護師をワクワクさせるだけでなく、現在職場で働いている看護師もイキイキと働くようになる」そんな採用活動があります。そのために必要なのはまず採用側の意識改革。「誰に」、「どんな情報を」、「何のために」伝えたいのかを明確にし、ホームページやパンフレットで「ナラティブ」に表現することが重要です。石田先生は、それを具体的な例をあげてわかりやすくお話しくださいました。

今回の開催はナースバンク立川だったため、受講者数はごく限られていました。10月17日（火）には飯田橋のナースプラザで受講者数を拡大して開催予定です。ぜひ受講してみてください。必ず、あなたの施設の採用活動に新風を吹き込んでくれるはずです。

石田先生の講義

やっぱり看護が好き

座談会

ベテラン・ナースのセカンドキャリア

やりがいで選択しいつまでも輝く

part 2

〈出席者〉

小田 三枝子さん
〔フォースリーフ株式会社 デイサービス リーフ・オアシス〕

杉本 弥生子さん
〔株式会社ケアーズ 暮らしの保健室〕

大和田 眞知子さん
〔東京都看護師等就業協力員／東京都ナースプラザ〕

大田 敦子所長〈司会〉
〔東京都ナースプラザ〕

小田さん

杉本さん

看護師の資格は一生もの。定年退職後もそれは変わりません。とくに、地域医療の現場では人生経験豊富なベテラン・ナースの活躍に期待が寄せられています。セカンドキャリアこそ、大きなやりがいを得るための次のステージです。

セカンドキャリアに踏み出すとき

大田　本日は、セカンドキャリアを積まれているベテラン・ナースの方々にお越しいただきました。本誌では、2012年にセカンドキャリアについての座談会を掲載しており（Vol.56）、今回の座談会はその続編として企画しました。お三方については下段のプロフィールもご参照ください。

さて早速ですが、杉本さんは定年まで急性期の病院で師長をされていましたので、病院に残るという選択肢もあったかと思うのですが、いまは「保健室」にお勤めです。新たな道を選んだ理由をお聞かせください。

杉本　おっしゃるように、継続して働き続ける選択肢もあったのですが、私はもともと現場が大好きで、最後はもう一度病棟で働きたいと思っていたのです。でも、残ったとしても希望がかなうかどうかわかりません。どうしようかと思っていたある日、外出から帰りテレビをつけたら、「新宿"人情"保健室」というタイトルが目に飛び込んで来ました。あれっ、なんだろう？と思って見始め、地域で働く看護師の取り組みを知りました。番組が終わったときには、私は絶対にここで働きたいと思っていました。

大田　就職活動はどのようにされたのですか。

杉本　まずインターネットで「暮らしの保健室」を検索しました。そして、室長の秋山正子さんにお会いする機会をつくっていただき、「保健室」にうかがったのですが、その日のうちに自然な流れで就職が決まりました。結局3月に病院を定年退職して、4月からブランクなしで、フルタイムで働くことになりました。

大田　勇気を出してご自身で動かれたということは、それだけ思いが強かったのですね。

大和田さんは現在ナースプラザ（以下、プラザ）の一員ですが、今回はセカンドキャリアの経験者として加わっていただきました。定年後はいったん病院に勤められたのですね。

大和田　定年退職してすぐに民間の病院に常勤で入りました。緩和ケア病棟にまだ機能していないことがあるので、ぜひうちにというお話があったのです。これまでのキャリアで培ってきたものをきちんと伝える役割があると思って行きましたが、1年目で退職を考えるようになりました。

大田　あら、どうされたのですか？

大和田　病院の看護部全体が人員不足にもかかわらず、みんなが意欲的に頑張っている現場だったものですから、とてもやりがいはありました。しかし、ストレスも多分にあったのでしょう、不整脈が出るようになってしまったのです。2年契約でしたので、2年目は引き継ぎのために業務整理や改善を行い、退職させていただきました。そして、ずっとあこがれだった「毎日が日曜日」を体験しようかと思っていたところにプラザのお話をいただきました。

それぞれの働き方

大田　冒頭で触れた5年前の座談会には小田さんにもご出席いただいています。長く訪問看護をされケアマネジャーも取得されて、セカンドキャリアではデイサービスを希望され、ナースバンクを活用して就職を決められました。座談会当時は働き始めて半年ほどで、それからちょうど5年経ちましたが、ずっと同じ職場で頑張っていらっしゃいます。いまは週に何日働いていますか。

小田　「オアシス」は週3日ですが、去年の2月から

●プロフィール●

小田 三枝子さん
1992年国分寺市医師会訪問看護ステーションにパートタイムで入職。96年からは正職員としてフルタイムで勤務。98年ケアマネジャー資格取得。2010年12月国分寺市医師会訪問看護ステーションを退職。11年12月よりデイサービス「リーフ・オアシス」（本文中では「オアシス」と略記）に勤務。

大和田協力員

大田所長

訪問看護を週1日プラスして、いまは週4日です。

大田　すごいですね！　頼まれて始めたのですか。

小田　いえ、新聞にチラシが入ってきたのです。新しいところができたのね、どのへんなのかなというぐらいだったのですが、しばらくしてもまた入ってくるじゃないですか。

大田　まだ決まらないのね、と思われた。

小田　ええ、私を待っているんじゃないのかしらと。（笑）それは冗談ですが、電話で週1日というこちらの条件をお話しして、その日のうちに面接を受けて、すぐに決まりました。週1日ですから訪問件数はそんなに多くはなく、3～4件です。ほかにも派遣に登録しており、訪問入浴や有料老人ホーム、デイサービスも含めていろいろなところを見ています。いいところは見習って「オアシス」をさらに良くしていこうという思いがありますし、とても充実しています。

大田　素晴らしいですね。小田さんのような方は本当に貴重です。

杉本さんは働き始めて何年になりましたか。

杉本　3年目に入ったところです。

大田　フルタイムとおっしゃっていましたね。

杉本　はい、当初は週3日ぐらい働いて、オフの日は趣味をやって、悠々自適の生活を送りたいと思っていましたので、その点はちょっと私の目算とは違いました。でも、いまはとにかく仕事が楽しいですし、やりがいがあって充実しています。フルタイムで大変な面はあるのですが、小さな組織だからこそ、幾分融通の利くところもあります。

大田　大和田さんは2年目ですね。

大和田　はい、2年目を迎えました。週4日勤務していますが、精神的に余裕をもって働くことを楽しんでいる日々です。発見だったのは、使える時間が増えたら掃除や料理が面白くなり、飽きずにやっています。家事が好きなことに気づかずここまで来たということで、セカンドキャリアは、あるいはそちらのほうなのかもしれません。（笑）

視野が拡がって生まれた柔軟な考え方

大田　小田さんは5年以上継続して働いてこられましたが、以前と何か変わったことはありますか。

小田　気づいたことがあります。訪問看護のころは、ご家族の介護の負担を軽減するために、という観点からデイサービスを勧めていることが多かったです。でも、実際中に入ってみると、これは当然のことなのですが、何よりも来られた通所者さんご本人が楽しく過ごせることが大事なのだと強く感じました。

大田　訪問看護も経験されているからわかる部分なのでしょうね。楽しく過ごしていただくために何か工夫していることはありますか。

小田　たとえば、スタッフはニックネームで呼び合っています。私としては、通所者さんの手前、「さん」付けで呼ばないといけないのでは、と最初のころはかなり抵抗があったのです。でも、スタッフ仲間に触発されて抵抗感も少しずつ薄れていきました。もともと自分が思っていることを表現することが苦手なところがあるのですが、少しずつ表現できるようになり、スタッフ同士が仲よくしているのをみていただくことも、通所者さんにとってよいことだと思うようになりました。

要介護度5で気管切開と経管栄養もしていた通所者の方が亡くなり、その後、その方のご主人が通所を申し込まれたということがありました。介護者の娘さんに選んでくださった理由を聞いてみましたら、お母様が通所されていたとき、苗字でなく名前で「○○さん」と呼ばれることで、ご自身も仲間として受け入れられていると感じておられたそうです。それで、お父様の通所もお願いしたとおっしゃいました。要介護度や医療依存度が高いことに対応できるからという理由ではないのです。私は看護師としてその対応もしっかりやってきましたので、そこをもっと評価してもらいたいと。（笑）でもそれは、その方の目線で選んでくださった理由なのですから、いいなと思います。

「オアシス」のコンセプトは「地域に生きる」ですので、まさにそこなのかもしれないと思います。

大田　新しい経験が視野を拡げ、柔軟な考え方をされるようになったのですね。

望んだ「現場」でやりがいを感じて

大田　杉本さんはどんなお仕事をされていますか。

杉本　まず、地域住民の健康や医療、介護、暮らし全般の相談を受けるという看護師としての仕事があります。夏でしたら「熱中症、脱水予防講座」などの地域住民への健康啓発活動、それ以外に、全国からみえる見学の方への対応やテレビや新聞などの取材への対応、さらに、地域看護の実習施設として4大学から実習生を受け入れていますので、その対応もあります。

大田　お話を聞いていると、看護の現場というよりは、師長さんの時代とあまり変わらないお仕事なのではないかとも思うのですが。

杉本　病院は治療が中心ですので、患者さんと接するのが現場です。でも、「保健室」に来られる地域住民の方は、確かに病気などの生きづらさを抱えている方もいらっしゃいますが、それを含めて生活を支えているというところが、まさしく「現場」だと感じます。古いのかもしれないですが、私はナイチンゲールの『看護覚え書』がとても好きです。そこには、「どんな仕事をするにせよ、実際に学ぶことができるのは現場においてのみである」とあります。病院に勤務していたころ、"もう少し早く病院に来てくれていれば後遺症も残らずに元の生活に復帰できたのではないか"と思うようなことがままありました。いまは、まさにその部分をフォローできる現場にいると実感しています。一点気をつけているのは、その方個人の人生をご自身で選択することができるよう、病院のときのような指導や助言にならないよう心がけています。

大田　病院での経験も活きていますね。実際にやりがいを感じるのはどんなときでしょうか。

杉本 弥生さん
福岡県の麻生飯塚病院で3年間勤務。その後上京し、東京女子医科大学・心臓血圧研究所附属病院に勤務。1983年東京都に入職し都立府中病院勤務。2010年からは都立多摩総合医療センターに勤務し、病棟管理、病床マネジメント、入院サポートの起ち上げに携わる。14年3月同センターを定年退職し、同年4月「暮らしの保健室」（本文中では「保健室」と略記）に入職。

大和田 眞知子さん
1981年都立駒込病院入職。2014年3月がん・感染症センター都立駒込病院を定年退職。同年4月より民間病院の緩和医療病棟勤務。16年3月同院を退職し、同年4月よりナースプラザ勤務。看護師等就業協力員として巡回訪問、復職支援研修などに携わる。その傍ら、「マギーズ東京」（本文中では「マギーズ」と略記）で週1回ボランティア活動をしている。

杉本　認知症の方の支援では、公的支援につないだ後も、その方が地域で役割や生きがいをもって生活していけるよう支援し続けます。普通なら少しずつ認知機能が落ちてくるのですが、改善してきたケースを経験しました。また、「胃瘻をつくらないと施設に戻れないと主人が病院で言われた」と、奥様が相談に来られたケースもあります。支援があれば自宅で看たいというお気持ちを話してくださいましたので、ご希望に沿うよう公的支援につなぎ、胃瘻もつくらず施設にも戻らず、現在はご自宅で生活されています。そういうケースに自分がかかわらせていただいたときは、とてもやりがいを感じます。地域で望んだ生活が送れるよう、どう支えていくかを考えています。

大田　望んだ現場で、新しい仕事にやりがいをもって取り組まれているのですね。

　いま、地域医療は大きなテーマです。お二人とも、まさにいま必要とされているところで力を発揮されているのだと思います。

仕事のやりがいと現場の醍醐味

大田　大和田さんは、いまのお仕事はどうですか。

大和田　プラザでは巡回訪問あるいは復職支援研修など、現場の看護職の方々のサポートをしていますが、民間病院での2年を含め、自分のキャリアのなかの看護や看護管理の視点という、これまでの経験を役立てることができていると思います。その意味で大いにやりがいを感じています。

大田　それはよかったです。プラザの仕事のほかに、ボランティアにも行かれていますね。

大和田　週1回、がんに関わる本人・家族・友人全ての方が、自分らしさを取り戻すことを支援する「マギーズ」に行っています。ボランティアというかたちではありますが、看護師として現場の醍醐味を感じることができる場でもあり、仕事のキャリアと人生経験のすべてが役立てられるということを実感します。

大田　大和田さんにとって、やりがいを感じる場なのですね。

大和田　看護師としてではなく、個人として来訪者の方と接します。マギーズは、がんのご本人、そのご家族や友人などの第2のわが家ですので、保健室と同じような意味で現場なのだと思います。全国から来られて、悩みや不安など本当にいろいろなお話をしてくださいますが、来られた方が自分を取り戻せたのかなと感じ取れる瞬間があって、そこに立ち合わせていただいたときなどは、少しは役に立てたのかなとうれしく思います。また、帰って行かれるときの明るくなった表情や「来てよかった」という言葉をいただいたときなどは、大きなやりがいを感じます。

前列左から小田さん、杉本さん、
後列左から大田所長、大和田協力員

やりがいで選択していつまでも輝く

大田　セカンドキャリアを積まれてきて、生活の面はいかがですか。これからという方にうかがうと収入について心配されていることが多いのですが。

杉本　確かに減りますが、子育ても終わっていますので、生活できて、ときどきおいしいものを食べたり旅行に行ったりする分があればいいと思っています。物欲もあまりなくなりました。（笑）それより、60歳を過ぎてからたくさんの方々と出会うことができて、お金では買えないものをいただいています。

大田　若いころは、収入は多くても支出も多いですね。何にあんなにかかっていたのかと。（笑）

　小田さんは、お仕事以外に何かやっていることはありますか。

小田　バドミントンを20年以上週1回続けていますし、英会話も長く続けています。私は海外旅行が大好きなのですが、行ってちょっと困ったときに、こちらから声をかけて困っていることを表現できるようになりました。それと、常勤のときには行けなかったパソコン教室にも通っています。

杉本　私も仕事の帰りに英会話に行っていますが、若い人たちと一緒に学ぶことが楽しくて、自分がとても元気になります。実は、いま母の介護もしていますが、無理しすぎてストレスが溜まらないよう、うまく発散するよう心がけています。自分が健康でないと元気を与えられませんので、まず自分が元気でいようと思っています。

大和田　やりがいを感じる仕事を選択できるのがセカンドキャリアのよさなのかもしれないですね。

大田　本当にそうですね。その選択が視野を拡げ、そこでキャリアはおのずと輝くのだということを、今日は教えていただきました。昨年から大分県看護協会さんでは、定年退職された方などを「プラチナナース」と呼んでいます。ある技に熟練したことをいぶし銀に例えることがありますが、そうではなく、これまでの貴重な看護経験はプラチナに値するという意味が込められているそうです。

　看護は世の中のためになり自分のためにもなる素晴らしい仕事です。皆さん、無理せず体を壊さないよう気をつけながら、これからも、ぜひ輝き続けていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

地域に密着した足立区 看護&介護就職フェア

●日時：平成29年7月22日（土）
10:30～15:00
●会場：シアター1010 ギャラリー11階

7月22日（土）足立区医師会との共催で、足立区「看護&介護 就職フェア」が開催されました。会場は北千住駅前と好立地のうえ700㎡と広く、区内30施設（求人コーナーのみの参加を含む）の参加でも、ブースの設置には十分余裕がありました。催事名に「介護」を入れ込んだ開催は珍しく、参加施設の約半数が介護関連施設のブースで占められ面談も盛況でした。会場奥には託児コーナーやリラクゼーションコーナー、喫茶コーナーも設けられており、参加者の方が寛ぐ姿がみられました。

7月に入るとすぐに連日の真夏日となった今年の夏、開催日も暑い1日でしたが、多くの参加者の方が来場されました。あなたも地域での開催の折に足を運んでみてください。きっといい出会いが待っています。

受付で受付表と参加医療機関の資料を受け取り会場内へ

受付表の記入を済ませた参加者をスタッフがエスコート

ナースプラザのコーナーでは就業相談が受けられます

ご家族で来場された方も

求人コーナー

面談風景

第2回 ふれあいナースバンク 就職相談会

●日時：平成29年6月16日（金）●会場：ナースバンク東京

梅雨入りしたとは思えない初夏らしい1日となった6月16日、「第2回ふれあいナースバンク」が開催されました。来場者数は125名、参加40施設全てに面談の希望があり、大盛況の開催となりました。「ふれあいナースバンク」の特徴はアットホームな雰囲気です。事前予約の必要がなく、履歴書の持参もリクルートスタイルも必要ありません。来場されれば、看護職経験者のスタッフが、「やっぱり看護が好き」ロゴ入りの黄色のウインドベスト姿でエスコートします。面談では、施設担当者と参加者が横並びで着座するようになっており、対面式より気軽な雰囲気です。

「ふれあいナースバンク」は、年度内に今後6回の開催が予定されています。ぜひ近くのナースバンクで参加してみてください。気軽に再就職への第一歩を踏み出しましょう。

お子さんを連れて来場された参加者の方

横並びの面談風景

面談受付には順番待ちの列

「ふれあいコーナー」で資料を閲覧中

29年度の開催予定

平成29年 9月 7日(木)	ナースバンク立川
平成29年 9月15日(金)	ナースバンク東京
平成29年11月 2日(木)	ナースバンク立川
平成29年11月10日(金)	ナースバンク東京
平成30年 2月 8日(木)	ナースバンク立川
平成30年 2月16日(金)	ナースバンク東京

看護の職場にカムバック!

再就業支援研修	受講者 120名	再就職しました!	69名
復職支援病院研修	受講者 246名	再就職しました!	161名

●東京都ナースプラザで開催している、離職中の方を対象とした「再就業支援研修」をご存知ですか?
平成28年度は受講者120名のうち、69名の方が再就職しています(平成29年5月末時点)。

●あなたの身近な地域の病院で行っている「復職支援病院研修」をご存知ですか?
平成27年度に受講した246名のうち、復職したと回答した方が161名います(1年後の調査)。
就職した皆様は、ナースバンクに登録し、研修を受けながら就職相談を受けて、再就職に繋げています。

●「もう一度看護の仕事がしたい。でも復職できるかしら?」と不安をお持ちのあなた

●復職への思いをもちながら、どうしても一歩が踏み出せずにいるあなた

東京都ナースプラザは、あなたの再就職を、あなたの状況に合わせて支援しています。
ナースプラザのホームページをご覧いただき、看護の職場へのカムバックにお役立てください。

ホームページはこちら
⇩
https://www.np-tokyo.jp/

よろしくネ!

東京都ナースプラザにマスコットが誕生。「サポちゃん」です。

つれづれ……

2年ぶりに多職種が集まる学会に参加してみました。メインテーマは「地域を守るあたたかな医療」、地域医療構想と地域包括ケアについてたくさんの提言や取り組みが紹介されていました。やはり、医療構想も包括ケアシステムも、看護師確保と定着・資質向上があってこそと実感しました。医療の現場は刻々と変化していますが、働き方の選択肢が増えていることも確かです。

東京都は「ダイバーシティ」誰もがいきいきと生活できる、活躍できる都市の実現を目指しています。いったん看護の職場から離れた皆さん、働き方や働く場所がプラスに変化していることを、ぜひナースプラザで実感してみてください。

(A・O)

●都内で20番目に多い街路樹●

アキニレ

表紙イラストのアキニレは、こんな木です。

アキニレはニレ科の落葉高木で、アジアに広く分布し水辺を好みます。初秋に咲いた小さな花は急ぎ足で翼果となり、晩秋には淡褐色に熟します。その昔、実は飢饉時の凶荒食とされましたが、いまは人が食する話は聞かず、落葉後に残った実は冬季、野鳥たちの貴重な食料となります。葉が小さいため盆栽として仕立てられることもあり、その場合はニレケヤキと呼ばれます。ちなみに、通常ニレと呼ばれるのはハルニレで、こちらも名のとおり春に開花し春に翼果を実らせます。

ナースバンク東京 TEL03-3359-3388

ACCESS

ナースバンク東京

●JR中央・総武線　飯田橋駅東口から徒歩7分
●東京メトロ東西線・有楽町線・南北線　飯田橋駅 出口B1から徒歩6分
●都営大江戸線 飯田橋駅 出口C1から徒歩5分
●都営大江戸線　牛込神楽坂駅　出口A3から徒歩5分

ナースバンク立川

新所在地:立川市曙町1-21-1
ユニゾ立川ビル6階
●JR中央線・青梅線・南武線　立川駅北口から徒歩7分
●多摩都市モノレール線　立川北駅から徒歩7分

東京都ナースプラザ 検索

●ホームページ:https://www.np-tokyo.jp/
●E メ ー ル:np@np-tokyo.jp

ナースバンク立川 TEL042-529-7077

TOKYO ナースプラザ やっぱり看護が好き Vol.66(3月·9月の年2回発行)
発行:東京都ナースプラザ　設置主体/東京都　運営受託者/公益社団法人東京都看護協会
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17 東京都看護協会会館1階　Tel 03-3359-3355　Fax 03-3260-9066

平成29年9月1日発行
再生紙を使用しています
石油系溶剤を含まないインキを使用しています